

議会の窓

～南諏衛生施設組合の業務～

南諏衛生施設組合は、富士見町と原村で構成する一部事務組合で、粗大ごみと不燃ごみの収集運搬と中間処理及びし尿処理を行っています。

年間の予算額は平成21年度で、2億3,448万円。これを人口割で富士見町が69.97%、原村が30.03%負担しています。そのうち、し尿処理費は約8,900万円、粗大ごみ処理費約8,000万円、埋立処分地管理費約1,400万円です。

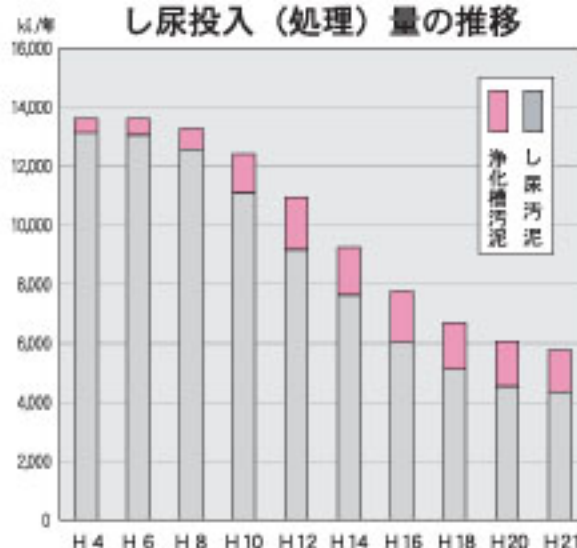
今回はその中から、し尿処理施設を取り上げてみます。

現在の処理施設は平成4年から稼働しています。処理能力は、1日に42kℓ。そのうち、し尿汚泥は40kℓ/日、浄化槽汚泥は2kℓ/日で、し尿汚泥に対して浄化槽汚泥が20分の1の割合を想定して建てられています。

し尿汚泥には栄養分がたくさんありますが、浄化槽汚泥は分解したカスなので処理が難しくなります。下水道の完備が進み、平成20年度ではその割合が、ほぼ3分の1となり、処理能力の限界に近くなっています。

現在は化学的処理等で対応していますが、施設の老朽化問題と合わせて、し尿処理施設のあり方について考えていく必要があります。

し尿投入（処理）量の推移



～表紙の写真から～

創業昭和9年、現地に開業したのが一代目、平出留雄さん。時計の修理でスタートし、時計、宝石、メガネへと時代に沿った商品レパートリーを広げ現在に至っています。

町に6軒あった時計屋さんも、今は平出時計店一店となりました。駅前日曜日も開店している数少ないお店です。

こうした努力に、三代目へと家業を確実に伝える商業者の原点を感じます。

■議会広報編集委員会

- | | |
|-------|----------|
| 編集委員長 | エンジェル千代子 |
| 副委員長 | 織田昭雄 |
| 委員 | 小名取一夫 |
| 委員 | 池武一 |

暑い夏の政治戦、参議院選挙が終わりました。ふたを開けてみればまた大きな変化。「政治とかね」の問題、普天間基地問題などマニフェストと実際の政策との乖離、そして消費税増税を唐突に打ち出したこと、これらが現政権を敗北に追い込んだ原因であることは、多くの方が認めているところです。

私たち町政に携わるものも、これを他人事とせず、気を引き締めて町政に臨みたいと思います。

議会では初めての試み「開かれた町議会」を目指して、町民の皆さんとの「意見交換会」を開催しました。これからもこれにとどまらず、議会と町民の皆さんとの交流の機会を広げていきたいと思っております。

(文取 武一)

〈編集後記〉